

令和4年1月24日

日本医学会分科会 理事長・会長殿
同 医学用語委員 殿

優性遺伝と劣性遺伝に代わる推奨用語について（結果報告）

日本医学会
会長 門田 守人
同 医学用語管理委員会
委員長 大江 和彦

日本医学会では、令和3年8月27日付にて「優性遺伝と劣性遺伝に代わる推奨用語について」別紙のように分科会からのご意見をお伺いしたところ、138学会中、賛成136学会、保留2学会、反対0学会のご回答をいただきました。また、多くの学会より貴重なご意見をお寄せいただきました。ご協力を賜りましたことに心より感謝申し上げる次第です。

この結果を受けて本会として最終的に以下のように取り決めたいと思います。貴会会員にもご周知いただければ幸いです。

なお、医学用語の変更は分科会や関連学会のみならず、医学以外の諸分野にも関連し、大きな影響が及ぶことがあることから、今後、貴会で用語の変更を検討される際には早い段階で日本医学会にご相談をいただくとともに、分科会以外の医学生物関係の学会において用語の変更を検討されているという情報がありましたら、本会にご一報をいただけますと幸いです。

優性遺伝と劣性遺伝に代わる推奨用語について

1. 「優性遺伝」「劣性遺伝」に代わる推奨用語は、それぞれ「**顕性遺伝**」「**潜性遺伝**」とする。
2. 従来の表記は、（優性遺伝）、（劣性遺伝）として、括弧書きで表記する。これらの用語は、本来、遺伝形式を示す用語であり、「**顕性遺伝（優性遺伝）**」「**潜性遺伝（劣性遺伝）**」と、遺伝形式として明記することが必要と考えられることから、4文字の用語として推奨用語を示す。
3. 5年程度の期間を経た後は推奨用語に移行する。

（注）顕性（優性）、潜性（劣性）はそれぞれ遺伝形式を示す表現であることから、推奨用語としてはそれぞれ「**遺伝**」を付与した「**顕性遺伝**」「**潜性遺伝**」として使用するものとする。

検討経過の詳細は、別添の「遺伝学用語に関するワーキンググループ」の報告書のとおりですが、ここに簡単に経緯を記載します。

- ・2017年9月 日本遺伝学会が、「遺伝単」を発行して、その中で、いくつかの遺伝学に関する用語の提案がなされたことを契機に、日本医学会用語管理委員会にWG（座長：辻省次 国際医療福祉大学教授）を設置。
- ・2018年12月までに計9回のWGを開催し検討を重ねた。この間、全分科会に第1回のアンケート調査実施。
- ・2018年12月11日 日本医学会公開シンポジウムを開催し討議。優性遺伝、劣性遺伝の用語については、第1回分科会アンケート結果では、この用語自体が優りと劣りを表しているものではなく、医療現場で特段困ることが多いという意見はあまり出されなかった一方、その語感から特に教育現場で誤解されやすいという声が強く、WGとしてより適切な用語を提示する方向で考えることになった。
- ・2019年7月下旬 第2回分科会アンケートを実施。「優性」、「劣性」の代替語として、次の6つの用語を推奨用語案として示し、全分科会（132分科会）の意見を求めた。（①顕性、潜性、②顕性、伏性、③顕性、隠性、④顕式、伏式、⑤ドミナント、リセッシブ、⑥表出性、潜在性）。その結果、代替語に変更することに対して賛成するという意見が、103分科会（78%）から寄せられ、多くの分科会から賛成の意見が表明された。
- ・2019年7月 日本学術会議から「高等学校の生物教育における重要用語の選定について（改訂）」というタイトルの「報告」が公表された。
- ・2019年10月 日本学術会議 基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物科学分科会 生物科学分野教育用語検討小委員会メンバーと日本医学会（会長、副会長、ワーキンググループメンバー）で、意見交換会を開催した。
- ・2019年12月 WGより、推奨用語を「顕性遺伝」「潜性遺伝」とすることを骨子とすし、一般向けパブリックコメントを実施した上で決定すること案が医学用語管理委員会に提示された。
- ・2020年6月下旬 日本医学会ホームページで1ヶ月間のパブリックコメント収集が実施され、特に新たに寄せられた意見はなかった。
- ・2021年6月 第10回WGにより報告書がまとめられ、用語管理委員会で承認した。

日本医学会としては、上記の経緯のように十分な検討が行われたことを受けて、最終的に分科会の承認を得て、正式決定したいと思っております。

つきましては、9月10日（金）までに、別紙にて承認の可否およびご意見を申し上げます。